

会 議 要 旨

会議の名称	第1回川越市駅周辺まちづくり懇談会
開催日時	令和7年8月27日（水） 15時00分 開会 / 17時00分 閉会
開催場所	川越市役所本庁舎7A会議室
出席者（委員）氏名	座 長 大澤 昭彦 委 員 小嶋 文 委 員 三友 奈々 委 員 湊 一成 委 員 小武海 篤史 委 員 京尾 淳一 委 員 鈴木 健二 委 員 野村 孝 委 員 小澤 正興 委 員 齋川 清美 委 員 宮澤 和彦 委 員 奥富 稔雄 ※代理出席 委 員 寸田 英利 ※代理出席
欠席者（委員）氏名	委 員 東 徹 委 員 山下 正雄
事務局職員職氏名	都市計画部部長、都市基盤整備担当参事 都市計画課長ほか都市計画課職員5名 都市整備課長ほか都市整備課職員3名
会議次第	1 開会 2 議題 (1) 川越市駅周辺まちづくりビジョンについて (2) 駅周辺の現状と課題 (3) まちづくりの方向性 3 その他 4 閉会

議 事 の 経 過
議題・発言内容・決定事項
1 開会 2 議題 (1) 川越市駅周辺まちづくりビジョンについて 事務局より資料をもとに説明。 <意見等> (委員) 事務局資料はよくまとまっているが、どこのまちでもあるような堅苦しい案に思えるため、寂しさがある。なにかポリシーやプラン等、共有されるものができるといい。 (委員) 地元の思い、若い人の意見なども入っていくと味のあるものができるのではないか。 (委員) (懇談会の趣旨として) 個別の要望は別とし、全体のイメージを議論する場という理解でいいか。 (事務局) 個別の問題を解決するにしても、例えば「子どもやお年寄りにやさしいまち」にしたいといった理念があったうえで、エスカレーター設置なども、その理念に資するものとして進めることができる。ただ、なにをやるにしても、行政だけ、地域の方々だけ、事業者だけでできるものではないので、関係者間で集まって、まずはどういう理念でまちづくりを進めていくのかという大きなところを議論いただきたいというのが、懇談会の趣旨である。 (委員) どういうまち、どういうエリアにしたいのかという方向性やビジョンがないと、個別の事業も本当に良いものなのかがわからないので、まずは大きな方向性を共有することが大事である。

（２）駅周辺の現状と課題

事務局より資料をもとに説明。

<意見等>

（委員）

（川越市駅の）東西を横断する手段が踏切だけという点が、大きな問題である。車と歩行者が錯綜し、危ない状況が朝晩あり、非常に長い時間を踏切が開くまで待つ状況も続いている。遮断時間が長いことに加え、高齢者も増えていることから事故が起こる可能性も高い。

（委員）

現状（駅の）東側のみに改札があるが、西側の住民も皆が使いたいと考えていると思う。西からも東からも行き来ができるようになれば川越市駅の利用者は相当増えるのではないか。（西口）改札がないため、川越駅を利用している住民もいる。

（委員）

川越市駅は、地域住民が協力して誘致した過去がある。住民が積極的に動いた歴史が他のまちとの違いではないか。ビジョンを作るにあたって物語がないと、住民が自分たちのものにできないと思う。

（委員）

駅周辺には、住民や学生、来街者が居心地よく過ごせる屋外空間（公共空間、広場空間）が少ないとのことだが、一般的に魅力的なまちには、多数の休める屋外空間がある。

（委員）

本川越駅の西口開設により、乗り換えの人流も非常に多くなっており、安全性を確保するためには道路の拡幅が必要である。

（委員）

川越市駅のホームはとても狭く、ホームドアもあった方がいい。

(3) まちづくりの方向性

事務局より資料をもとに説明

<意見等>

(委員)

川越市駅周辺の開発・発展なくして川越市の経済の発展はない。若い世代の都内への流出抑制を考えると、土地利用を最大限に生かすような商業施設が望ましい。川越市の中心として発展させ、埼玉県の核となるような開発のまちづくりができないか。

(委員)

(方向性として) 川越駅、本川越駅、川越市駅のすべてを商業のまちとして発展させるのは難しいと思う。川越市駅の周辺には、学校が複数位置しており学生も多いため、文教や行政の集積地にすべきではないか。

(委員)

(事務局資料の方向性は、) 川越市らしさがなく、一般論となっているように感じた。川越は特徴のあるまちだと思う。観光や学校が多いなどの特色が入れば、川越市らしさが出てくるのではないか。

(委員)

まちづくりを考えるときに、空間や景観、土地利用の観点から考えがちではあるが、住民や学生、観光客も含め、普段の暮らしや過ごし方から考えていくことも必要である。

(委員)

特徴として3駅(川越駅、本川越駅、川越市駅)あることが挙げられ、3駅の中での川越市駅らしさを考えることも重要である。加えて、鉄道沿線の中での川越市の魅力といった広い視点からも検討し、様々な視点から川越らしさ、川越市駅らしさを考えていくと良いのではないか。

(委員)

開発をするにしても、商業や住宅だけでなく、何か色を付けられるといい。回遊性や安全性というものに加えて、そこに濃い色を添えられるようなコンセプトがいいのではないのか。

また、駅前開発は作って終わりではなく、生かし育てていくことが必要である。学生や観光客も交流できるよう、地域の人が主体となって賑わいを形成できるコンセプトを設定できるといい。

(委員)

まちの個性を考えるうえで、どういう人がプレイヤーとしているのか、人という視点から見たときに、どういうまちであるのかということも、検討課題となるかと思う。

(委員)

事業を実施するにあたり、短期的にできるものと中長期的に考えていかなければいけないものがあると思う。

(委員)

駅周辺の道路整備・検討にあたり、「歩行者」の視点も重要である。

(委員)

(川越市駅周辺には) 学生も多くいるため、まちづくりの議論にも入ってもらうことも考えるべきではないか。コンペで案を募集する地域もあり、賞金を出してプロのコンサルタントが応募するような例や、学生の応募を奨励するカテゴリを作っている例もある。特色ある教育を行う学校も近隣にあるので、高校生にもまちづくりに参画できるような機会を作っていただきたい。

(委員)

駅周辺の住宅地には子どもが少ない一方、高齢者は多く空き家も目立ってきている。子どもたちのために将来を見越した時、子どもたちがいない現状でどういうまちづくりしていけばいいのか、悩ましいところである。

3 その他

懇談会のほか、地域住民、学生、商店会、駅利用者を対象としたワークショップの開催を予定している。第2回懇談会は11月の開催を予定している。

4 閉会

以上